

第4期名古屋市教育振興基本計画（案）における5つの基本的方向について

○学校教育

- ・ナゴヤ・スクール・イノベーション（授業改善等の推進）
- ・キャリア教育の推進
- ・多様な教育的ニーズへの対応（特別支援教育、日本語指導）
- ・グローバル人材の育成（高校生の海外派遣、外国語教育の充実）
- ・学校図書館の充実
- ・元気いっぱいなごやっ子の育成（体力の向上・運動習慣の形成）

○針路応援・地域連携

- ・いじめ防止対策の強化
- ・不登校児童生徒への支援の充実（校内の教室以外の居場所づくり、ICTを活用した学習支援）
- ・教育相談体制の整備（なごや子ども応援委員会、子ども適応相談センター、ハートフレンドなごや）
- ・中学校部活動の見直し
- ・高校と大学の連携
- ・コミュニティ・スクール

I 全ての子どもたちの可能性を引き出し、社会で活躍できる力を育成します

II 学校・家庭・地域が連携し、子どもの豊かな育ちを応援する体制を整備します

○教育環境

- ・学校施設改修（バリアフリー化、老朽化対策、空調整備、防災対策）
- ・特別支援学校教室不足解消
- ・望ましい学校規模の確保
- ・働き方改革の推進
- ・教職員研修の実施

○生涯学習

- ・子どもの読書活動の推進
- ・図書館改革の推進
- ・博物館の魅力向上の推進
- ・若年層に向けた生涯学習施策振興
- ・文化財保存活用地域計画の策定

III 子どもや教職員のための良好な教育環境を整備します

IV 生涯を通じた学びの支援と、名古屋に人をひきつける文化の魅力の創造・発信を進めます

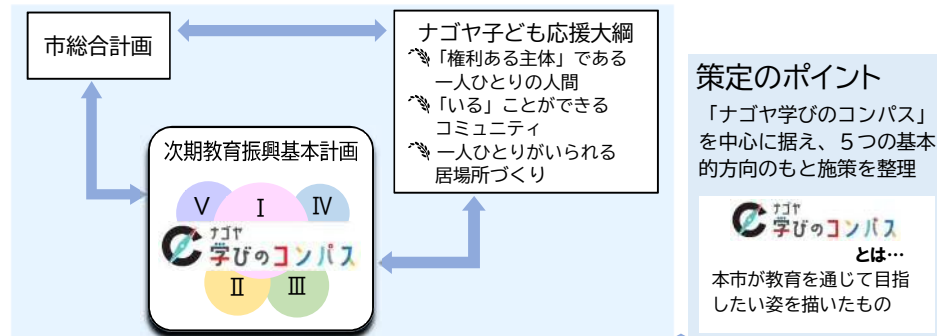
○教育DX

- ・1人1台端末の活用推進
- ・図書館学習室等予約システムの導入
- ・科学館発券システムの再構築

V 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進します

第4期名古屋市教育振興基本計画(案)骨子

位置づけ



市総合計画「めざす都市像」

- 都市像1 人権が尊重され、誰もがいきいきと暮らし、活躍できるまち
- 都市像2 安心して子育てができ、子どもや若者が豊かに育つまち
- 都市像3 人が支え合い、災害に強く安心・安全に暮らせるまち
- 都市像4 快適な都市環境と自然が調和したまち
- 都市像5 魅力と活力にあふれ、世界から人や企業をひきつける、開かれたまち

ナゴヤ子ども応援大綱

～日本で一番子どもを応援し、一人の子どもも死なせないマチ ナゴヤ～

本市の教育を取り巻く環境

- ✓少子化・高齢化に伴う人口構造の変化
- ✓社会的包摂（インクルージョン）の要請
- ✓デジタル化の急速な進展
- ✓SDGsの理念の実現
- ✓探究型学習の必要性の高まり
- ✓キャリア教育の重要性の高まり
- ✓深刻ないじめや不登校児童生徒の増加
- ✓教員の長時間労働の未解消
- ✓学校施設等の老朽化の進行
- ✓地域教育力の低下

＜参考＞【国】次期教育振興基本計画「今後の教育施策に関する基本的な方針」

- グローバル化する社会の持続的な発展に向けて学び続ける人材の育成
- 誰一人取り残さず、全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進
- 地域や家庭と共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進
- 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進
- 計画の実効性確保のための基盤整備・対話

【5つの基本的方向(重点戦略)】

- I 全ての子どもたちの可能性を引き出し、社会で活躍できる力を育成します



- II 学校・家庭・地域が連携し、子どもの豊かな育ちを応援する体制を整備します



- III 子どもや教職員のための良好な教育環境を整備します



- IV 生涯を通じた学びの支援と名古屋に人をひきつける文化の魅力の創造・発信を進めます

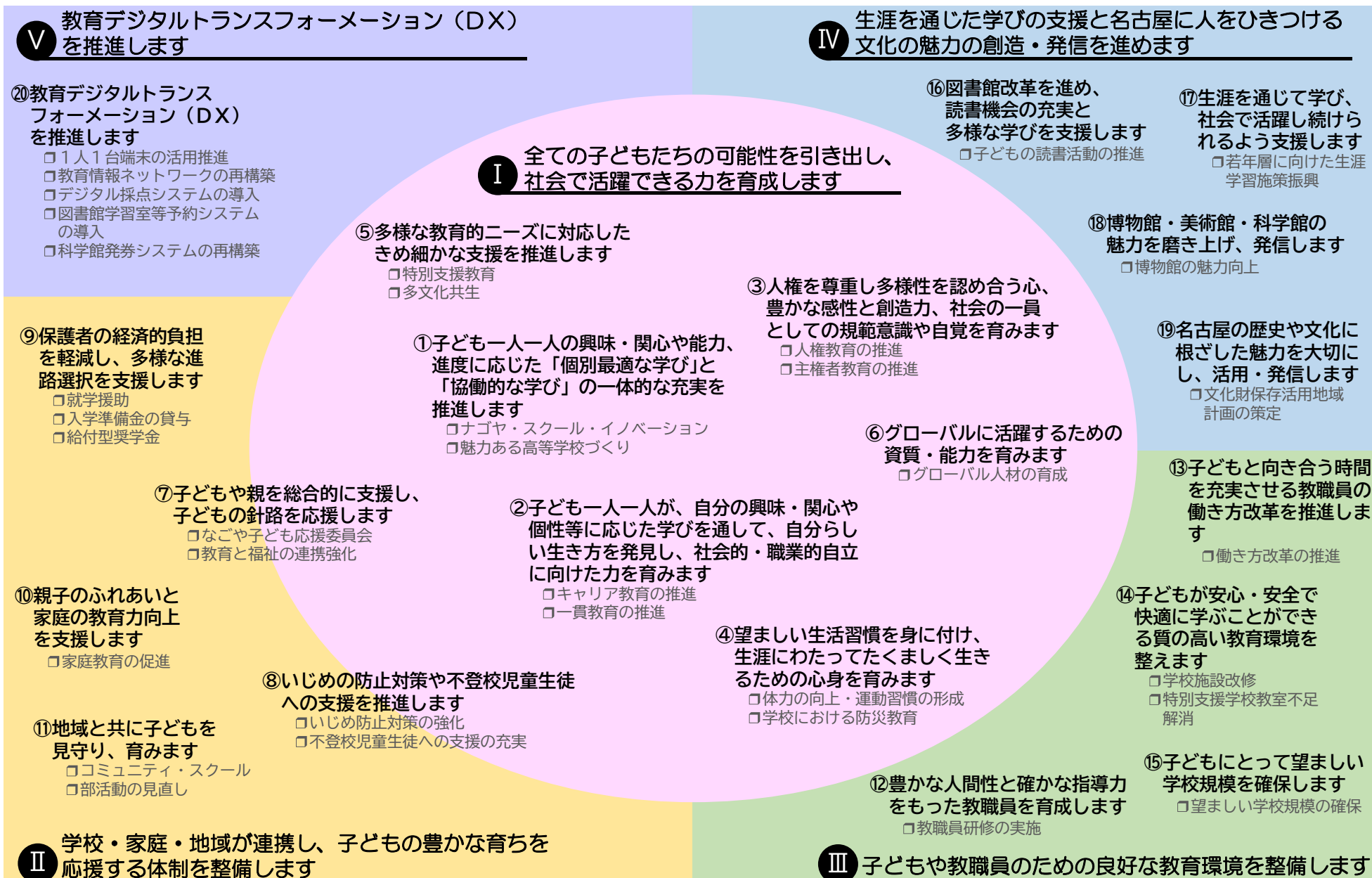


- V 教育デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進します



第4期名古屋市教育振興基本計画(案)骨子

【5つの基本的方向(重点戦略)と施策体系】



学校園の教育目標について 対話しましょう

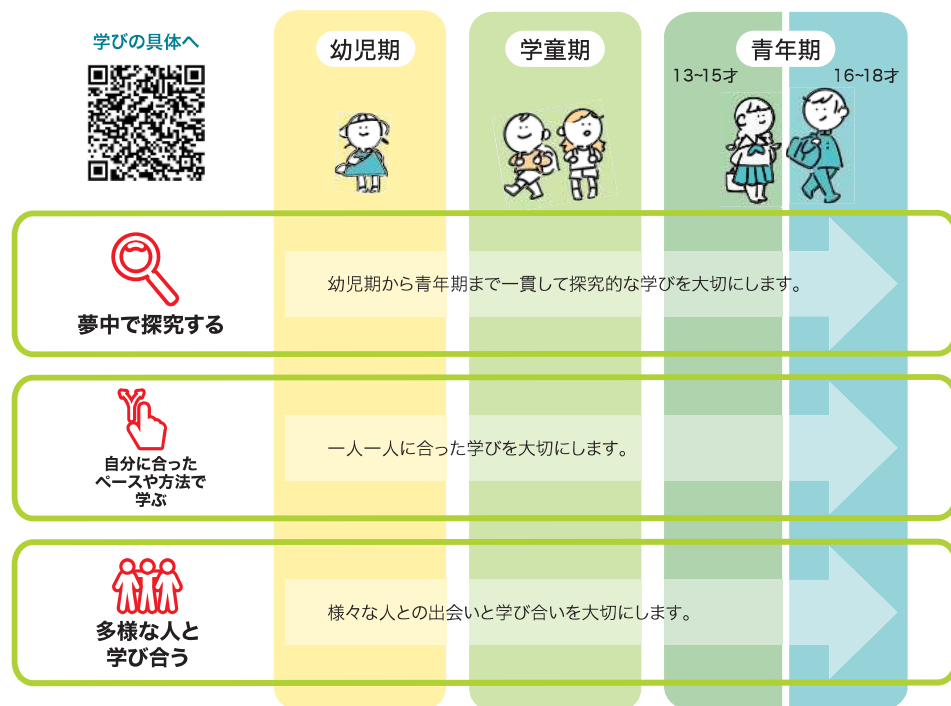
学びのコンパスを参考にして、学校園の実態に合った教育目標について全教職員で対話しましょう。

対話の方法へ



重視したい学びの姿 ~「子ども中心の学び」を全ての学校園で~

一人一人の成長過程に合わせて、3つの学びの姿を実現していきましょう。



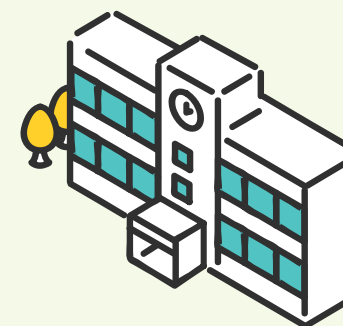
どの学校園でも 大人が大切にしたいこと

「子どもは有能な学び手」であると理解し、尊重、対話、チャレンジを大切にしながら、子どもの学びに伴走しましょう。

実践の紹介へ



「学びのコンパス」は、名古屋市の全ての子どもが学びを通して自分らしく、幸せに生きていくことができるよう、名古屋市の学びの基本的な考えを示したものです。自律して学び続ける子どもの育成を目指し、「子ども中心の学び」を幼児期から青年期まで一貫して大切にしていきます。名古屋市の学校園では、「ナゴヤ学びのコンパス」を基に、全ての教職員が対話を重ねながら、それぞれの学校園や子どもたちの実態に合った教育について考え、実践を進めていきます。



名古屋市教育委員会

※吹き出しの言葉は、名古屋市の小学生、中学生、高校生、およそ8,000人から、求めている学びについて聞き取ったものの一部です。

全ての子どもが自分らしく、幸せに生きていくために、
「子ども中心の学び」を幼児期から青年期まで
一貫して大切にします。

名古屋市の 学校教育を通じて 目指したい姿



どの学校園でも大人が大切にしたいこと

全ての子どもは、適切な環境とそれを支える仲間・大人に出会うことで、自ら学びを進め、深めていく存在であるという意味で、「有能な学び手」といえます。
私たち大人は、子どもを「有能な学び手」と信じ、尊重・対話・チャレンジを大切にしながら、子どもの学びに伴走していきます。

実現したい市民の姿

自由な市民として
互いを認め合い、
共に社会を創造する

目指したい子どもの姿

ゆるやかな協働性の
中で自律して
学び続ける

重視したい学びの姿

自分に合った
ペースや
方法で学ぶ



多様な人と
学び合う



夢中で
探究する



どの学校園でも 大人が大切にしたいこと 子どもは有能な学び手であると理解し、 子どもの学びに伴走する

子ども
一人一人の
思いや願いを
尊重する

子どもと
対話する

子どもの
自分なりの
チャレンジを
大事にする

実現したい市民の姿



人は誰もが「自由」に、つまり、自分らしく生きたいように生きたいと願っています。ここで掲げる「自由な市民」とは、**自分も他者も全ての人の自由を尊重する市民**のことを指しています。
私たちは、未来を生きる子どもたちが、こうした「自由な市民」として社会の創り手に成長していくことが、本市の学校園の教育を通じて目指すべき姿であると考えています。

目指したい子どもの姿



子どもたちが必要に応じて、仲間や大人の力を借りたり、自分の力を貸したりする「ゆるやかな協働性」のもとで一人一人が自律して学び続けている姿が、目指したい子どもの姿です。

重視したい学びの姿



「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善の考え方に基づく名古屋市の実践を踏まえて、大切にしたい三つの要素を取り上げました。
これまでも、これからも大切にしたい姿です。

